

「片岡忠孝さんの思い出」

2020年8月31日

増原 宏

片岡忠孝さんは我々光化学研究者の間では大変有名な栄光社という会社の社長さんです。病氣療養中のところでしたが2020年3月13日お亡くなりになりました。公私とも大変お世話になりましたが御礼を申し上げることもできなくなり、思い出を書いてご冥福をお祈りさせていただきます。石英セル、ESR用の石英セルについては、片岡さんは自分の石英が日本で一番良いと言っていました。「他の業者の石英に放射線をあててESRのシグナルを測ったらノイズが出てしょうがないから、うちのをみんな買いに来るんだ」という話でした。片岡さんはよく阪大基礎工の又賀研に出入りしていました。片岡さんは出入りの業者の域を超えて、若い研究者の強いサポートをしていました。何よりも印象的だったのは、中国からの留学生を何人も個人的に支援したことです。その頃、ほとんど大学にはまだ外国人留学生を援助するシステムがありませんでした。中国人の袁さんという背の高い人が中国から東京工業大学の田附重雄先生の研究室に留学してきました。田附先生と増原が共同研究していたこともあって知ったのですが、片岡さんが献身的に彼のお世話をしていました。例えば、当時の留学生は日本のどこかを見に行くお金なんかないんですが、どこかに行きたいなと言うと、季節ごとに片岡さんが連れて行っているようでした。学会に行くと言っても、教官が年に1回か2回参加するための旅費も十分に無い時代でした。例えば、又賀研では全教職員の旅費を足してそれを教員で分け、発表する院生にも少し分け与えるという計算をしていました。東京往復に必要な旅費+ホテル代のミニマムに0.4を掛けたぐらいの金額を支給していましたので、私も出張するたびに赤字でした。当時は物価の差もあって、中国人留学生が旅費を工面するのはほとんど不可能でした。それを片岡さんが援助し「俺が連れて行ってやるわ」、「俺が食べさせてやるわ」、「俺はお金儲けをするから、それをお前たちに返してやるわ」と言うような人でした。

片岡さんはファンが全国にいる大阪人でした。もともとわもてだったとか、もと新聞記者だったとか、いろんな噂がありました。とにかく政治的なカンがするどく、政治家の秘書もつとまるような人と思ったものです。怒鳴り合ったりするのも結構強いので、ヤクザ的と思っ

た人もいたのでしょう。栄光社という大阪市にあるガラス屋さんで、奥さんの実家の家業の手伝っていると理解していました。その後、社長になられました。当時はメールがないのですべての連絡に電話を使っており、注文の確認やお金の請求書の件などで奥さんから電話がかかってきた時の声を私は今でも覚えています。「もしもし増原先生ですか、おはようございます。栄光社です」などなど。私の世代の光化学研究者はこの奥さんの声を今でも思い出せると思います。

彼の自宅は石橋にあって、奥さんが大阪市内の会社で経理をして、彼は外回りをしていて、阪大を回って、京都や京大の熊取原子力実験所によく行っておられました。彼は研究室を回って納品したり注文を取ったりした後、早く家に帰っても奥さんはまだ働いていますからしょうがないとうことで、自分の家がある石橋から一番近い豊中キャンパスに寄って研究室を回り、おしゃべりしてから家に帰ります。そのおしゃべりの相手を私たちがしているので、又賀研にはディスカウントして商品を納品してくれました。そして、彼が袁さんにこうこうしたとか、東工大の誰が何を買ったとか、京大の何先生がある装置を購入したとか、そういう話をいっぱいしてくれました。私が阪大応物に移ってからは、増原研にしばしば寄ってくれました。彼はその頃ベンツに乗っていて、しばしば阪大応物にベンツが停まっているわけです。80年頃にベンツ E に乗っていたという、そういう方でした。彼は光化学の研究者と非常に親しく、その中の一人で長く関係が続いたのが豊中高校出身の井上晴夫さんです。特に、豊中・石橋の大阪の北の連帯感があったようで、井上さんは東京大学のご出身ですが、東京人的でない付き合い方ができる方ですので特に親しい関係でした。

片岡さんは色々なことを言います。あるとき「年取ったら人間眠れへんな」と言います。眠れへんかったらどうするかと聞くと「ウイスキーを飲むと良い」と言います。そして「ウイスキーはやっぱりいいウイスキーでなければならない」と。「いいウイスキーをストレートでくっーと飲むと喉を伝わっていくのがわかる。それを2・3回繰り返すと眠れるようになる」そうです。この話は何回も聞いていたのですが、晩年食道がんになって入院されたので、「若い時からストレートのウイスキーで喉を焼いていたから食道炎になって、食道炎からガンになったんちゃうか」と言うと、片岡さんは「そんなウイスキーの話はしてへんよ」と言います。僕の記憶に間違いがないのですが、片岡さんの供養にもなるかと思い、そういう会話が合った

ことをメモしておきます。

片岡さんは研究者の状況描写をよくしていて、大学教授の誰がだめで、本当に研究ができるのは誰かなど、全部解説して帰ります。だめな人は明らかにすると申し訳ないので、褒められた人だけ言いますと、一番褒められたのは又賀先生です。片岡さんのように多才な経営者は本当に学問一筋の人が好きになるのかもしれませんが。又賀先生の奥さんが高知県出身で、片岡さんも高知県出身ですので、高知県の話をして盛り上がったりしていました。お子さんのない片岡さんは学生や若い助手クラスを自分の子供のように思っていて、何かあるごとに「今日暇やろう、ご飯食べに行こか」などと言って、豊中・蛍池・石橋界隈の当時の私たちが行くには高い店に連れて行って食べさせてくれました。その時は一度の例外もなく日本食の魚の類でした。彼が選んでくれた店は大変美味しいと同時に、コストパフォーマンスが非常に良いところでした。どんなに美味しくても高いのは駄目だし、高くてもまずいところには二度と行かない、というタイプです。豊中の国道沿いの店に何度か連れて行ってもらったことがあります。

この経験・記憶は私だけではないと思います。阪大の産研で言えば朴鍾震先生です。阪大産研の櫻井洸研究室の助手であった大先生で、たくさんのお弟子さんがいて、井上佳久さん、光化学協会の現会長の石谷治さんなども全員朴さんのお弟子さんです。櫻井先生は阪大産研の所長で、後に奈良高専の校長先生で、更に奈良先端大学院大学の設立準備室長でもあり、ほとんど研究室にいないような先生でした。実際には光化学では朴スクールでした。朴さんの光化学は世界でも一流でした。片岡さんは朴さんの研究室にもよく行っていました。あるいは「朴さんのところに今行ってきたんやけどな」と言って、僕のところに来ました。片岡さんがそういう形で仲の良かった光化学の面々が集まって、片岡さんが60歳になった時、片岡さんの還暦祝を京都四条の有名な古い中華料理屋さんの東華菜館でやりました。私は京都工繊大の教授だった時ですが、ルーバンカトリック大学のデシュライバーさんもその場にいました。たしか光化学討論会の最後の夜だったと思いますが、片岡さんはプレゼントした赤いちゃんちゃんこ帽子をかぶっていました。そういう経緯もあったので、光化学協会が出来る前から光化学のグループがお金が必要な時に、例えば何十周年記念をやるとかそういう時に、彼がサポーターになってくれました。また光化学協会は片岡さんに援助してもらって、それで栄光社賞という賞をスタートさせました。彼はいろんなことを知っていて、賞をつくるのにもいろんな

条件を出しました。「賞の名前は、“栄光社”というのはいいけれども、“片岡”という名前はいいけない。そんな根性でやっているのではない。俺はあんたたちが好きでやってただけだ」ということで、自分がいざっぱり出しゃばるために行っているのではないと言い、そういったことに関して筋が通った人でした。

彼は中国によく行きました。彼は書とか絵とかに詳しい人でした。藤嶋さんが開催する日中光化学の会の折に、井上晴夫さんら多くの方と一緒に中国に行って、黄山に登ったりしたそうです。片岡さんは書のコレクションをされていて、私はよく分かりませんでした。たびたび見せてもらいました。ヨーロッパにも行きました。ベルギーでの会議中は誰かに片岡さんの世話を頼んだんですが、その人が要領を得なかったようで、帰ってきてから「あの人は全然世話をしてくれなかった」とクレームをいただきました。ハワイも行きました。

ある日栄光社を閉めることにしたと言ってきました。「もう年だし、それに俺のセルの良いところが分からない研究者ばかりだ。」と片岡流に皮肉を言っていました。全国の片岡さんが好きな人だけに「セルでも何でもなんぼでもやるで」と言っていました。彼は会社は終わったとは言っても、実はまだ自宅に石英を持っていました。それを知っている親しい人達だけが「片岡さんまだ石英もらえる？」と言うと「やるわ」とポケットからポイっと出してくれるわけです。貴重なものなのでお金を払おうとすると、「払えへんで。会社も無いにゃから。小遣いくれるのか」ということを言う、そういう冗談めかした話ばかりをする人でした。片岡さんは私より 15・6 歳上でしょうか、彼は晩年病気になったり千里のケアハウスに入ったりしていました。義理の甥御さんがお医者さんか病院か何かの関係者で、その頃の彼の面倒を見ておられたようです。阪大病院で手術をする時も世話をしてくれたのはその方です。人間というのは親子だけではなく、基本的に誰かに親切にすると相手はそれを感じます。そして、その親切に見返りを求めないところが片岡さんのすごいところだったと思います。あの世と一緒にいいウイスキーをぐっとやりましようとの想いでこの小文を書きました。